

第 37 回歴史地震研究会（伊賀大会）の中止とオンライン伊賀大会開催のお知らせ（第 4 報）（修正）

歴史地震研究会では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大にともない、三重県伊賀市で開催を予定しておりました第 37 回歴史地震研究会（伊賀大会）を中止し、研究発表会、総会のみ、以下のとおり第 37 回歴史地震研究会（オンライン伊賀大会）としてオンラインで開催します

1. 日程および参加費

2020 年 9 月 26 日（土）～28 日（月）の 3 日間

26 日（土） 13:30～16:00：研究発表会

27 日（日） 9:30～15:05：研究発表会

28 日（月） 9:15～15:20：研究会・総会

・今回は緊急のオンラインでの開催につき、大会参加費は無料です。

2. 研究会参加の申し込み等

例年、研究発表会については参加申し込みを不要としておりましたが、オンラインでの開催となりましたので、事前の参加申し込みをお願いします。参加申し込みは 9 月 23 日（水）まで。以下の URL よりお申し込みください。

なお、誠に勝手ながら、非会員の方は第 37 回歴史地震研究会（伊賀大会）へお申込みいただいた方のみとさせていただきます。

<https://forms.gle/hrb2uUDjdR1YyhvDA>

（ご参加に当たってのご注意）

・本大会は、研究発表会、総会とも Zoom を利用します。ウェブへの接続環境は、あらかじめ各自でご準備ください。

なお、ご参加のお申し込みをいただきました方には、大会ホームページの URL、および発表会視聴用の ID、パスワードと Zoom の接続情報を別途お知らせいたします。

3. 発表について

口頭発表・ポスター発表には Zoom を利用します。

3-1. 口頭発表

Zoom の画面共有機能でスライド等を表示し、発表者が口頭（マイク）で説明します。

3-2. ポスター発表

各ポスター（PDF ファイル）を大会ホームページに掲載します。

発表者・参加者の意見交換等は、コアタイムに開設する Zoom ミーティングを利用いただきます。

なお、ポスターごとの議論には、上記 Zoom ミーティングのブレイクアウトルーム（分科会）が利用できます。

3-3. 2 ページ要旨

オンラインでの大会には参加できないという方でも、既にご提出済みの講演要旨を 2 ページに拡充のうえ再提出いただきました場合は、今回に限り、発表したものとみなします。なお、当該発表に

基づく原稿を会誌「歴史地震」への論説等の投稿に際しては、査読者は1名（会誌編集規定細則19）となる場合があります。

4. 発表ファイルのアップロードについて

ポスター発表の方、2ページ要旨で発表とみなす方法を選ばれた方、口頭発表の方でZoomでの発表に不安のある方（バックアップとして発表ファイルを行事委員会に預けたい方を含む。）は、別途お知らせするURLに発表ファイル（ポスター、2ページ要旨、スライド）をアップロードしてください。なお、アップロードしていただいたファイルは、研究会終了後に削除いたします。

◇ファイルの種類：PDF（口頭発表の方のスライドはpptまたはpptxファイルで可）

◇期限：9月23日（水）必着といたします。

第37回歴史地震研究会（オンライン伊賀大会）プログラム

9月26日（土）

研究発表会（第1日） 開場13時～

口頭発表セッションⅠ 関東地方の地震と諸現象ほか 13:30～14:45

O-01 石辺岳男・松浦律子・古村美津子・赤塚真弓・田力正好・岩佐幸治・榎原雅治・佐竹健治

有感地震記述ならびに震度の距離減衰式に基づく地震活動解析に向けて

O-02 馬場道人

海老原家文書を用いた安政江戸地震の余震活動の分析

O-03 佐竹健治・石辺岳男

過去400年の江戸・東京の有感地震—均質な地震活動推定へ向けて—

O-04 武村雅之

関東大震災と東京—復興小公園の100年

O-05 井上公夫・相原延光

山梨県東部・相模川流域の土砂災害と「びやく」の地名との関連

休憩<15分>

ポスターセッション コアタイムⅠ 15:00～16:00

9月27日（日）

研究発表会（第2日） 開場9時～

口頭発表セッションⅡ 北海道・東北地方の地震と諸現象Ⅰ 9:30～10:45

O-06 蝦名裕一

慶長奥州地震津波に関する史料の記述と伝承の継承

O-07 西村裕一

ロシアの報告書に記録された1983年日本海中部地震津波と1993年北海道南西沖地震津波の沿海州における挙動

O-08 室谷智子・佐竹健治・石辺岳男

日本海で発生した地震の断層モデルによる津波波形と津波痕跡高の比較

O-09 石村大輔・蝦名裕一

岩手県山田町小谷島の津波伝承に関する歴史・地質学的検討

O-10 河内一男

関上と汰上は津波起源の地名か

休憩<15分>

口頭発表セッションⅢ 北海道・東北地方の地震と諸現象Ⅱ 11:00~12:00

- O-11 樋口茂生・高橋 明・坂東和郎
続 新潟旧寄居村周辺における1964年新潟地震地盤災害の見直し―「無被害地域」境界の地質学的解釈―
- O-12 佐々木淳
享徳地震発生日が命日と推定できる板碑について
- O-13 沼田 清
末崎仁平の明治三陸津波写真をめぐる三資料
- O-14 松岡祐也
宮城県石巻候所による昭和三陸地震津波の現地調査報告―報告書3種の関係性を中心に―

昼休み<1時間>

口頭発表セッションⅣ 南海トラフの地震と諸現象Ⅰ 13:00~14:00

- O-15 小松原琢
伊勢湾沿岸低地に現存する中世建造物
- O-16 楠本 聡・今井健太郎・大林涼子・高橋成実・堀 高峰
遠地津波波形から推定される1854年安政東海・南海地震の津波励起時刻
- O-17 今井健太郎・都司嘉宣・蝦名裕一・柄本邦明・大林涼子・岩瀬浩之
1854年安政南海地震による高知県沿岸における津波痕跡高の再評価
- O-18 前田正明・阪本尚生
和歌山県内に残る宝永・安政地震津波関係史料の所在確認と活用

休憩<20分>

口頭発表セッションⅤ 南海トラフの地震と諸現象Ⅱ 14:20~15:05

- O-19 北原糸子
占領下の地震災害―和歌山県新庄村『昭和の津浪』を読み直す
- O-21 西山昭仁
宝永地震(1707年)前後の京都における有感地震の検討
- O-22 坂本正夫
安政東海地震(1854)における伊那谷(長野県)の被害調査

9月28日(月)

研究発表会(第3日) 開場9時～

口頭発表セッションVI 西日本の地震と諸現象I 9:15～10:30

O-20 都築充雄

安政東海地震(1854)における愛知県の寺院被害状況の整理(その6)西三河全域における文献調査

O-23 今村隆正

愛知県の歴史地震と土砂災害

O-24 加納靖之

1854年伊賀上野地震の際の福井の液状化記事

O-25 松尾裕治・松本秀應・村上仁士

嘉永7年伊賀上野地震に伴う満濃池決壊

O-26 大邑潤三

1830年文政京都地震による人的被害の発生要因

休憩<20分>

口頭発表セッションVII 西日本の地震と諸現象II 10:50～11:50

O-27 水田敏彦・鏡味洋史

1925年北但馬地震直後の踏査報告の足跡をたどって

O-28 榎本祐嗣・山辺典昭・杉浦繁貴・近藤 斎

1995年神戸地震直前・直後の西の夜空は何故明るくなったのか?

O-29 宍倉正展・西浦蒼生・前杢英明

弘化四年(1847年)瓦版に記された丹後国・上り山地変の実態

O-30 松浦律子・中村 操

1700年対馬東水道の地震と1872年浜田地震の震源断層について

昼休み<1時間10分>

ポスターセッション コアタイムII 13:00～14:00

休憩<20分>

総会 14:20～15:20

要旨発表

A-01 新田康二

昭和東南海地震のモニュメントの建立と社会的背景

A-02 都司嘉宣・増田達男

火災発生件数は安政・東南海地震が 51 件、宝永地震が 1 件（宿毛）、なぜこんな大差がある？

A-03 和田祐香・松多信尚*・石山達也・廣内大助

水利施設の変遷から推定される富士川河口断層帯・入山瀬断層の安政東海地震時の地殻変動

A-04 上田貴和子

アメリカ合衆国における災害救援の歴史と、転換点としての 1906 年サンフランシスコ大地震

ポスター発表

P-01 近藤 斎・大杉 節・榎本祐嗣

根尾谷断層におけるガンマ線強度・スペクトル測定

P-02 山村紀香・小泉尚嗣・中村 衛

地変・被害から推定する 1909 年姉川地震の詳細地震像

P-03 水田敏彦・鏡味洋史

1918 年大町地震の被害に関する文献調査—スペイン風邪流行下での被害地震—

P-04 青島 晃・土屋光永・中野幸子・野嶋宏二・松井孝友

アンケート調査による 1944 年東南海地震の浜松市南部の液状化現象

P-05 久永哲也・内田篤貴・椋代大暉・佐々木哲朗・小川典芳・浦谷裕明・武村雅之・都築充雄

東海地域における南海トラフ沿いの歴史地震津波に関する現地調査結果について（その 2）

P-06 谷川 亘・内山庄一郎・浦本豪一郎・鈴木比奈子・大橋育順

SfM と DSM を用いた地震津波碑のデジタル複写による文字の判読

P-07 相原延光・井上公夫

南関東の土砂災害地名「びやく」とその語源について

P-08 荒井賢一・篠田海遥

埼玉県所沢市に残る 1923 年関東地震および 1924 年丹沢地震に関する記録

P-09 篠田海遥・荒井賢一

埼玉県本庄市に残る 1923 年関東地震に関する記録～本震直後に生じた人々の混乱～

